

2023年版 サトイモ疫病対策

2023年2月
さといも振興研究会

実施時期の目安		実施項目		薬剤名	希釈倍数	散布液量		使用方法	使用時期	本剤使用回数	RACコード	注意事項		
2月～4月	植付前	土壌分析・適正施肥										・JAが実施している土壌診断を利用して、適正施肥に努める。 ・連作となっていないか、水はけが良いか、などを考慮して、作付けほ場を選定する。		
		種芋消毒	①種芋選別									・傷、腐敗のある芋は使用しない。 ・可能な限り、疫病の被害のないほ場の種芋を用いる。 ・疫病感染株では、子芋は疫病に感染している可能性が高いことから、孫芋を中心に利用する。		
			②種芋洗浄									・ケミクロンGの50,000倍希釈液(10Lあたり0.2g)に種芋をコンテナごと入れ、上下に振り洗いで芋に着いた土をよく落とす。 ・水に浮く種芋は廃棄する。 ・洗浄後、風乾する。		
			③種芋消毒	ベンレートT水和剤20	20倍		1分間浸漬	植付前	1回	F:M03、F:1	・薬液は1日で使い切り、翌日に持ち越さない。	種芋消毒に関する資料「病害を防ぐ！さといもの種芋消毒法」に詳しい方法が記載されていますので、ご確認下さい。		
		残渣の処理									・親芋や廃棄する種芋は、穴などに埋設処理する。 ・フレールモアなどで破碎する方法もある、畑で実施するとその後の野菜の発芽に影響を及ぼす危険性があります。 ・さといも残渣の山に厚手のブルーシートを被覆するのも有効。ただし飛ばされないように対策をすること。 ・雑木林の中などに捨てないこと(翌年のサトイモ疫病の発生源となるため)。			
		農業散布用通路の設置										・10mおきを目安に、畝間1本分を空けて農業散布用の通路を確保する。 ・自身の所有する動力噴霧器、散布ノズルの能力により通路を設置する間隔を調整する。		
随時		野良生え芋の処理										・トラクタで粉碎する。 ・前年度さといも作付ほ場や残渣捨て場にさといもの芽が出てきた場合は、耕耘やブルーシートで全面を覆うなどして、地上部に葉が出ていない状態にする。		
6月～	4葉期以降	薬剤散布		ベンコゼブ水和剤 ※2 (ジマンダイセン水和剤)	500倍	100～300 L/10 a		散布	収穫7日前まで	2回以内	F:M03	・日平均気温20～25℃で、数日間の降雨や日降水量20mm以上の多雨で発病しやすくなる。 特に株当たりの葉枚数が15枚以上になると、ほ場内が高湿度となるため、予防散布開始の目安とする。 ・霧状に噴霧できる噴口を使い、葉裏にもしっかり薬液が付くように丁寧に散布する。 ・薬液には展着剤(ドライバーまたはスカッシュ)を加用する。 ・【注意】ベンコゼブ水和剤(ジマンダイセン水和剤)の有効成分マンゼブ(使用2回まで)は、カンパネラ水和剤(ベネセット水和剤)にも含まれるため、使用にあたっては特に注意する。		
				ランマンフロアブル	2000倍	100～300 L/10 a		散布	収穫前日まで	2回以内	F:21			
6月～7月	土寄せ											・マルチを剥がすときに葉を傷つけないように気を付ける。 ・土寄せのタイミングが遅れると葉が茂り、機械を通すと葉を傷つけるので、天候に注意して作業計画を立てる。		
6月～9月	疫病発生確認後	薬剤散布		ダイナモ顆粒水和剤	2000倍	100～300 L/10a		散布	収穫21日前まで	3回以内	F:21、F:27	・初発確認後は自分のほ場でも発生している可能性が高いと考え、ほ場を十分に確認する。発生初期は下葉から発病することが多い。 ・自分のほ場で発生が確認された場合は、ただちに治療効果に優れるダイナモ顆粒水和剤を散布する。 ・薬液には展着剤(ドライバーまたはスカッシュ)を加用する。		
					40倍	3.2L/10a		無人航空機による散布						
					20倍	1.6L/10a								
初発を確認後、情報提供します														
6月～9月	疫病発生時期	薬剤散布		カンパネラ水和剤 ※2 (ベネセット水和剤)	1,000倍	100～300 L/10 a		散布	収穫7日前まで	2回以内	F:40 F:M03	・ローテーションで7～14日おきに散布する。 ・薬液には展着剤(ドライバーまたはスカッシュ)を加用する。 ・散布は可能な限りほ場に入らないようにして行う。鉄砲噴口を使用しても、ほ場中央部の株(特に葉柄部や下葉)には薬液がかかりにくい。ほ場中央部の疫病の発生状況が悪化した場合は、やむを得ず畝間に入り、後退しながら散布を行うようにする。 ・【注意】カンパネラ水和剤(ベネセット水和剤)は、ベンコゼブ水和剤(ジマンダイセン水和剤)と同一成分のマンゼブ(使用2回まで)を含むので、散布する際は散布履歴をよく確認し、使用回数を超えないよう特に注意する。		
		薬剤散布	アミスター20フロアブル	2000倍	100～300 L/10 a		散布	収穫14日前まで	3回以内	F:11				
				18倍	1.6L/10a		無人航空機による散布							
				薬剤散布		ダイナモ顆粒水和剤	上記参照							
				薬剤散布		アミスター20フロアブル	上記参照							
9月～10月	倒伏前	薬剤散布		ジーファイン水和剤	1000倍	150～500 L/10 a		散布	収穫前日まで	－	F:NC、F:M01	・疫病の発生がみられたほ場では、軟腐病対策を兼ねて散布する。		
9月～12月	収穫期											・種芋株は、なるべく疫病の発生していないほ場から選び、芋に腐りのない健全な株を選ぶ。		
10月～3月	収穫後	残渣の処理										・収穫後の親芋、葉、葉柄などの残渣は、可能ならばほ場外へ持ち出し、穴に埋めるなどして処理する。 ・穴に捨てるのが困難な場合は、ロータリーで細断し、土壌とよく混和する。		

※表で示したサトイモ疫病の発生時期は目安ですので、実際の発生状況に合わせて農業散布を行って下さい。
農業の使用にあたっては、必ずラベルに記載された使用方法に従って下さい。
農業を使用する際は、飛散防止に努め、使用記録簿をつけましょう。
掲載した農業は、2023年1月25日現在の登録情報に基づいています。

※2【注意】ベンコゼブ水和剤(ジマンダイセン水和剤)とカンパネラ水和剤(ベネセット水和剤)は、同一の有効成分マンゼブ(使用2回まで)を含むため、使用にあたっては散布履歴をよく確認し、使用回数を超えないよう特に注意してください。

【 お問い合わせ先 】

川越農林振興センター 農業支援部 ☎049-242-1804